

# 市教委との懇談会を開催

(市P連事業部会 常任委員 筆)

令和3年度 倉敷市PTA联合会(以下、市P連)と倉敷市教育委員会(以下、市教委)との懇談会が、10月26日(火)13:30～ 倉敷市役所においてコロナ対策を施し、市教委9名、市P連10名、倉敷市公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会(以下、市幼・こP)2名、事務局3名の計24名で開催されました。

「本会は2年ごとの開催なのですが、昨年、市P連から毎年の開催をと希望しており、それを早速に実現していただき嬉しく思っています。それぞれの学校での悩みがありますが、今日はその中でアンケートをもとに5つの議題を抜粋してきたのでよろしくお願いします。」と市P連会長から挨拶がありました。次に教育長から挨拶があり、コロナ禍でいろいろな行事や大会ができなくなっていること、教員の志望が少なくなっていることなど、問題視されていました。



教育長へ小・中学校、幼稚園からの要望書提出

①ICTの教育環境整備、②いじめ・不登校・虐待等の早期発見・早期対応、③幼稚園・こども園へのエアコン設置問題、④災害に関する防災教育や対策、⑤道徳教育や地元の伝統文化に関する教育の5つのテーマが上げられ質疑応答は2時間に及びました。

特に活発に意見が交わされたのは、いじめ・不登校・虐待等の早期発見対応についてのテーマでした。

いじめや虐待で命を落とす子どもたちのことに思いを巡らせながら、「もっと早く気づいてあげることができたなら・・・もっと早く情報を出してもらえたら・・・救える命であったのではないかな。PTAとしては早期に発見できたのなら情報を共有し共に問題解決に向けて動きたい。」と訴えました。

市教委からは「個人が特定できる場合はすぐに個別対応できるが、特定できないケースやSNSなど目に見えないケースなど発見に時間がかかる場合もある。情報の開示についても本人が言わないで欲しいというケースもあり、実際には個人情報なのでPTAに知らせることができない場合もあり、それぞれのケースにより対応は大きく異なる。」と回答がありました。

これに対し市P連から、「同市ではないがTV報道を見ているとよく学校の隠ぺい体質を問われること

があり、問題が発覚するまで誰も何も知らなかったという報道を耳にする。」と心配する発言がなされました。

市教委は、「情報を開示することが必ずしも子どもたちを救うこと、守ることには繋がらないこともあり、その子の将来のためには口をつぐまざるを得ないこともある。絶対に漏らしてはいけない情報を共有するのはPTAの皆さんも大変なこと。学校が悪者になることでその子どもを守れるのなら、それでもかまわないと考えていた。」という真に迫る回答が得られました。

市P連は、「何度も言いますが、我々は皆さんと争いたいのではないのです。ただ子どもたちのために一緒に考え、先生と悩みを共有し共に手を取りあって問題解決に向けてできることをしたいのです。」とまとめ、市教委も同感し最善の方法で解決に向かうことを話し合いました。



また道徳教育についての話し合いの中で、市P連から「地元の幼稚園では運動会のリレーの時、子どもたちが自分たちでチームを考え、勝てばとても喜び、負けても誰かを責めるのではなく、励まし助け合う姿を見ることができます。胸が熱くなり先生方の声掛けが素敵だと感心しています。しかし、小学校へあがると『順位を付けてはいけない』『がんばれと言ってはいけない』『走力に差があるためそもそもリレーさえしない』など、せっかくいいものを小さい時に育ててもらったのに、それを継続するというか、生かすことはできないのであろうかと思う。」と問いかけました。

「昔は特にスポーツ関係は努力・根性・忍耐といった精神論でやっていたが、今は支援・ケア・優しさを重視する時代。昭和、平成、そして令和と親の世代で考えも違うのでとても難しい問題。」と市教委、市P連ともに悩ましいと共感しました。



しかし、「今、中学校では、先生も先輩も上下関係なく友達のような付き合いをしています。大人になったらどうなるのか心配です。難しい問題だが、難しいからと言ってそのままにしておくのは問題だと思います。」と市P連から追及し、大事な問題なのでこれからも共に考えていきたいと話をまとめました。

今までは市教委というのは、現場と距離があり、難しい方々の集まりだと変な先入観をもっていました。しかし懇談会を終えて、子どもたちや先生方の気持ちに寄り添い努力されていることがよく解りました。そういった面では我々PTAと全く同じです。

面と向かい話し合うことで書面では知ることのできない気持ちとか、感情とか、普段は言えない切り込んだ質問などさせていただきとても有意義な時間でした。

最後に、懇談会を開催したからといって各学校が抱える悩みが全て消える訳ではありません。このような場を設けていただくことで、保護者の生の声を届けることができます。

市教委とPTAが定期的に懇親を行い、互いの距離を縮めることが大切だとも感じました。

